

北海道十勝地方におけるオシドリの生息状況

藤巻裕蔵¹

北海道では、オシドリは夏鳥で、繁殖することが知られているが（日本鳥学会 1974）、生息状況については、1978年に行なわれた全国動物分布調査（環境庁 1979）があるだけで、よくわかっているとはいえない。この種はレッドデータブックでは希少種にあげられており（環境庁 1991）、生息状況を明らかにしておくことは重要である。

十勝地方は太平洋沿岸から西の日高山脈、北の大雪山系まで農耕地、都市、森林とさまざまな環境がそろっており、海跡湖、河跡湖、河川、ダム湖、山地の湖といった水域があり、オシドリの分布特性を明らかにするのに適した条件をそなえている。

ここでは、これまで得られた観察結果にもとづいて、十勝地方におけるオシドリの分布、生息状況についてまとめ、報告する。

この報告をまとめるにあたり、観察記録を提供していただいた飯嶋良朗、川辺百樹、鈴木利典、三木昇の各氏にお礼申しあげる。

調査地および調査方法

調査地は十勝地方のほぼ全域にわたる。西部は日高山脈、北部は大雪山系、東部は白糠丘陵で山地となっており、中央部から海岸にかけてが平野部となっている（図1）。おもな河川は十勝川、札内川、音更川、利別川などで、後の3河川は平野部で十勝川に合流する（図1）。十勝川上流部には屈足、岩松、十勝、上岩松、トムラのダム湖、下流ぞいには育素多沼、音更川上流部に糠平ダム湖、利別川水系上・中流部に仙美里、活込、糠南のダム湖、また海岸ぞいには生花苗沼、湧洞沼、長節沼などの水域がある。

調査地地域を、5万分1の地形図を縦横それぞれ4区分した大きさに区分して1区画とした（約5×5 km）。これらの区画のうち、山間部53区画、平野部104区画、計157区画に2 kmの調査路を1～2か所設け、1978～1993年のおもに4月下旬～7月上旬の繁殖期に、各調査路で1～数回の観察を行なった。また、河川や湖沼では、4月下旬～10月に1回30分程度の定点観察を行なった。このほか、これらの調査以外のときに得られた観察記録、日本野鳥の会会員の記録、文献（芳賀 1973, 1976, 1983, 芳賀・永山 1980, 川辺 1976）も、生息期間や分布図のための資料としてもちいた。

1993年11月12日受理

1. 〒080 帯広市稲田町 帯広畜産大学野生動物管理学研究室

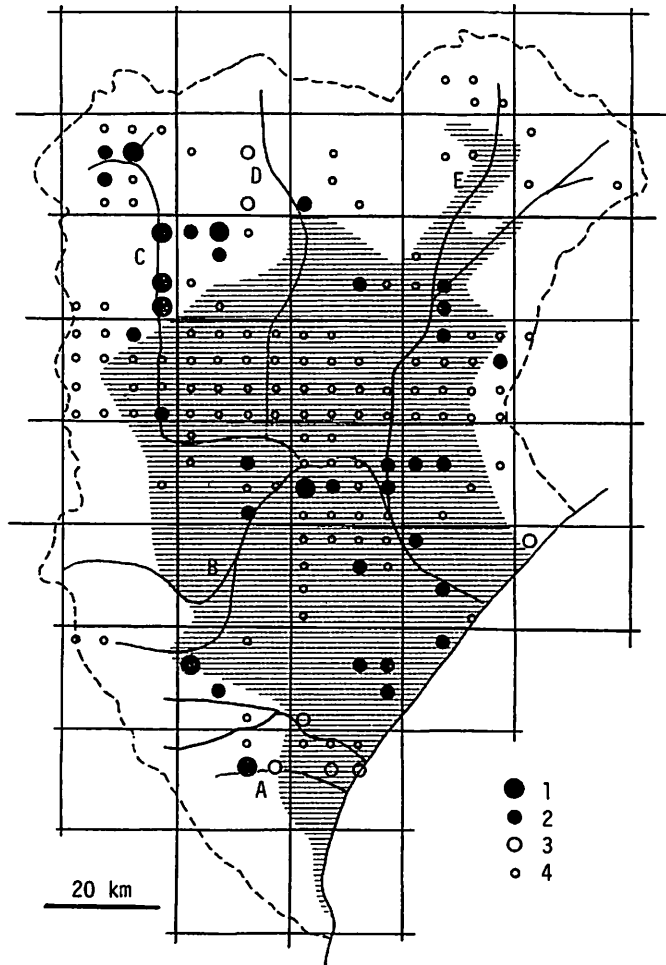


図1. 十勝地方におけるオシドリ分布. 1 =繁殖(巣または子連れの雌による確認), 2 = 4~7月の観察, 3 = 8~10月の観察, 4 =調査したが観察されず. A =紋別川, B =札内川, C =十勝川, D =音更川, E =利別川. 横線部は平野部を示す.

Fig. 1. Distribution of the Mandarin Duck in Tokachi district, Hokkaido. 1 =breeding confirmed by nest or female with young, 2 =sight record from April to July, 3 =sight record from August to October, 4 =no sight record. A =Monbetsu River, B =Satsunai River, C =Tokachi River, D =Otofuke Rivre, E =Toshibetsu River. Shaded area shows the plain.

結 果

1. 生息期間

十勝地方で、オシドリがみられたのは4~10月である。各月の観察回数は同じではないが、観察例数は山地の水域では4月から5月にかけて多くなり、その後は減少し、9月に再び多くなり、10月には少なくなった(表1)。11月以降にはまったく観察されなかった。平野部では4月に多く、その後は次第に少なくなり、山間部より早く10月以降には観察されなかった(表1)。

表1. 十勝地方における各月のオシドリの観察例数.

Table 1. The number of sightings of Mandarin Ducks in Tokachi district, Hokkaido.

	調査区画数 No. of quadrat surveyed	Apr.	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.
山地 Mountainous area	53	14	33	24	8	10	19	5
平野部 Plain	104	15	7	6	4	3	4	0
計 Total	157	29	40	30	12	13	23	5

調査期間中で最も早い記録は、4月13日（1982年、豊頃町長節川）、最も遅い記録は10月25日（1979年、新得町上岩松ダム湖）であった。

2. 分布

4月下旬～7月上旬にオシドリの生息が確認されたのは、山間部では北東部の十勝川上流部と然別湖、北部の音更川上流部、南西部の紋別川上流部と札内川上流部、平野部では十勝川中・下流部、利別川中流部、海岸近くの生花苗沼などである。ただし、十勝川下流部の場合は川ぞいの小さな沼や支流、利別川中流部の場合は、カラマツ林内の池、支流、ダム湖で、本流ではなかった。このように、オシドリは山間部にも平野部にも分布していた。調査した区画数に対する出現した区画数の割合をみると、4月から10月まで山間部では28%、平野部では19%であるが、有意な差はなかった（Fisherの正確確率検定、 $P=0.980$ ）。

山地では北部のダム湖、平野部では海岸近くの川や海跡湖で8月以降だけに観察されたところがあった（図1）。平野部の場合は、繁殖期と同様、観察されたのはいずれも川ぞいの小さな沼や細い川で、川幅の広い河川ではなかった。

3. 生息数、群れサイズ

調査路を歩きながらの観察では、道路、林道、堤防など歩きやすい所を調査路として利用したので、オシドリが観察されたのは道路ぞいに水たまりや沼がある場合であった。これらの調査で出現したオシドリの数は、2kmで1～4羽であった。定点観察やそれ以外のときに観察された例も含めると、一度にみられる個体数は子連れの場合を除けば1～5羽であった。4～6月には雌雄2羽の例が比較的良好にみられたが、全体にあまりはつきりした傾向はなかった（表2）。

4. 繁殖

調査期間中に繁殖を観察できたのは1例だけである。これは然別湖畔のクマガラの巢（地上7m）を利用したもので、6月7日（1987年）に7～8羽のヒナが巢穴からとびおり、巢内には衰弱したヒナ1羽が残っていた。

このほか、小さな幼鳥のいる家族群の観察により、繁殖が確認されたのは、十勝川上流部の岩松、上岩松、トムラの各ダム湖、十勝川中流部、札内川上流部、紋別川上流部の砂防ダム湖である（図1）。これらの家族群がみられたのは、6、7月で、それぞれ5、4例である。雌1羽と一緒にいた幼鳥の数は、6月には3～14羽、 6.8 ± 4.0 羽（ $\bar{x} \pm SD$ ）、7月には4～6羽、 4.5 ± 0.9 羽であったが、6、7月のあいだで有意な差はなかった（Mann

表2. 十勝地方における各月のオシドリの群れサイズ.

Table 2. Group sizes of Madarin Ducks in Tokachi district, Hokkaido.

群れサイズ Group size	各群れサイズの観察例数 No. of sightings different group size						計 Total
	Apr.	May	June	July	Aug.	Sep.	
1羽	1	1		1		3	6
2羽	6	3	3	1	1	2	16
3羽	3		1		1	1	6
4羽				1	1	2	4
5羽	2						2
$\bar{x} \pm SD$	2.7 \pm 1.2	1.8 \pm 0.4	2.3 \pm 0.4	2.3	3.0	2.2 \pm 1.2	2.4 \pm 1.1

-Whitney の U 検定, $U = 8$, $P > 0.05$).

考 察

十勝地方でオシドリの生息期間は4~10月で、夏鳥である点はこれまで得られている知見とかわるところはない。ただ、最も早い春の観察記録が、十勝地方より西に位置する空知地方では4月3日であるが(藤巻 1984)、十勝地方では上述のように4月中旬、釧路地方では4月16~30日(藤巻 1984)なので、北海道東部では春の渡来が西部よりやや遅れるようである。

オシドリは、渡来したばかりの春先にはかなり平野部でもみられるが、生息環境は、川幅のせまい支流や小さい沼である。その後、多くは山間部の水域に移動するようで、このことは観察例の季節変化からうかがえる。5~7月にも平野部でオシドリが観察されたのは、小さな沼や川幅のせまい川で、川幅の広い本流や大きな沼に生息していたような場合には、いずれも近くに森林があった。たとえば、十勝川中流部では川の北側河岸段丘はおもに落葉広葉樹の森林で、生花苗沼の北側と東側は森林である。このように、オシドリはあまり開けた水域には生息しないようである。

秋にもあまり平野部の水域には飛来しないようで、観察例は少なかった。十勝川下流部ぞいにある育索多沼や海岸沿いにある湧洞沼では、春から秋にかけて詳しい調査が行なわれているが、オシドリはまったく記録されていない(北海道 1979, 日本野鳥の会十勝支部 1986)。このほか、北海道では1974~1980年に面積の広いクッチャロ湖、涛沸湖、風蓮湖、ウトナイ沼、大沼・小沼でも春から秋にかけて詳しい調査が行なわれたが、オシドリが記録されたのは大沼・小沼だけであった(北海道 1981)。

調査期間中、オシドリの大きな群れは観察されなかった。これまでの記録でも岩松ダム湖で10月に39羽(川辺 1976)、札幌近郊の野幌森林公園にある池では10月に30羽前後(野村 1981)の例がある。遅く10月まで生息しているのはおもに山間部の水域であるが、すでに10月には観察例が少なくなっており、平野部では10月以降にはみられなかったことから、おそらく9月から10月にかけて越冬地にむけて移動をはじめており、越冬地でみられるような大きな群れ(清棲 1978, Fujimaki & Murofushi 1985)になることはない。

繁殖に関する観察例は少ないが、6月上旬からヒナがみられはじめるので、産卵数7~12卵、抱卵期間28~30日くらい(清棲 1978)ということ を考慮すると、十勝地方では4

月下旬には産卵がはじまっている。オンドリの繁殖期は4月下旬から7月ごろまでとされているので(清棲 1978), 十勝地方における繁殖開始時期はその他の地域と大きな違いはないといえるであろう。

要 約

1978~1993年に北海道十勝地方でオンドリの生息状況を調べた。春の渡来は4月中頃で、9月から10月にかけて越冬地にむけて移動する。おもな生息地は山間部の水域で、平野部では川幅のせまい支流や小さな沼である。約5×5 kmの区画156か所における調査では、山間部28%, 平野部19%の区画でオンドリが観察され、その際の個体数は、調査路2 kmあたり1~4羽であった。巣立ちは6月上旬で、子連れの雌は6, 7月にみられ、雌1羽あたりの幼鳥数は6月に 6.8 ± 4.0 羽 ($\bar{x} \pm SD$), 7月に 4.5 ± 0.9 羽であった。

引用文献

- 藤巻裕蔵. 1984. 北海道のオンドリの分布(中間報告1). 北海道野鳥だより(58):7.
- Fujimaki, Y., and Murofushi, Y. 1985. Distribution and number of the mandarin duck in Japan. Rare and Endangered Birds of the Far East. pp. 103-109. Institute of Biology and Soil Sciences, Vladivostok. (In Russian)
- 芳賀良一. 1973. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書6. 鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書, pp. 114-133, 北海道電力, 札幌.
- 芳賀良一. 1976. 十勝川水系上流地域上岩松ダム周辺の自然環境3. 鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書IV上岩松ダム周辺の自然環境, pp. 67-76, 北海道電力, 札幌.
- 芳賀良一. 1983. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書IX 富村発電所建設の事後生態調査(1981), pp. 133-160, 北海道電力, 札幌.
- 芳賀良一・永山盛敏. 1980. 十勝ダム環境調査報告書. 十勝ダム環境アセスメント委員会, 札幌.
- 北海道. 1979. 野鳥生息環境実態調査報告書一 湧洞沼一. 北海道, 札幌.
- 北海道. 1981. 野鳥生息環境実態調査報告書一 総括一. 北海道, 札幌.
- 川辺百樹. 1976. 十勝地方北部の水鳥相1. 秋から初冬にかけて. ひがし大雪博物館館報(2):7-11.
- 環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布報告書(鳥類)全国版. 環境庁, 東京.
- 環境庁. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物, 脊椎動物編. 日本野生生物研究センター, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑II. 講談社, 東京.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録改訂5版. 学習研究社, 東京.
- 日本野鳥の会十勝支部. 1986. 育素多沼の鳥類. Strix 5:23-29.
- 野村悟郎. 1981. 野幌森林公園に生息するカモ類について. 北海道開拓記念館研究年報(9):27-34.

Status of the Mandarin Duck in Tokachi district, Hokkaido

Yuzo Fujimaki¹

A local population of mandarin ducks *Aix galericulata* was studied in Tokachi district, Hokkaido, from 1978 to 1993. Mandarin Ducks appeared in mid-April and began to migrate

to wintering areas from September to October. Main habitats were bodies of water in mountainous areas, and narrow streams and small-sized ponds in the plain. A total of 157 quadrats (ca. 5×5 km) were surveyed. Mandarin Ducks were observed in 28% of 53 quadrats in the mountains and in 19% of 104 quadrats in the plain. The number of ducks counted ranged from one to four birds per 2 km. The young fledged in early June and females with young were observed in June and July. Brood sizes ranged from 3 to 14 with an average of 6.8 ± 4.0 ($x \pm SD$) in June and from 4 to 6 with an average of 4.5 ± 0.9 in July. There was no significant difference in brood size between June and July. Large flocks of more than five birds were not observed during the study except for family groups.

1. Laboratory of Wildlife Ecology, Department of Agro-Environmental Science, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Inada, Obihiro 080